

をかけてくれましたね。お弁当に添えられていたお母さんからの手紙を私は筆箱の中にそっとしまってお守りみたいに毎日持ち歩いています。「ずっとがんばってきたから大丈夫!」という言葉や私を抱きしめてくれたぬくもりを思い出すたび、私は不安が和らぎ、前を向くことができます。普段は照れくさくて言えないけど、今まで育ててくれて本当にありがとう。これからも甘えてしまうけど、私はお父さんお母さんのもとに生まれて本当によかったと心から思います。

そして、仲間たち。笑い合い、何気なく過ぎた日々が、どれほど幸せだったか。雨の日も暑い日も並んで歩いた通学路。授業を受ける友達の真剣な横顔。床磨きのあとピカピカに輝く廊下。他愛もないことで笑い転げた昼休み。いつの間にか小さくなった制服――もう二度と戻らないかけがえのない日々の愛しさに、今になって気付きます。小学校から共に過ごし、支え合い、つながり合いながら成長してきた私たちです。今日の卒業は、嬉しさと同時に言葉にできない寂しさもあります。

いよいよ旅立ちのときが来ました。仲間と共に積み重ねた日常という名の土台の上に、百二十八人がそれぞれの成長を積み上げ、私たちはいま未来への新たな扉を開きます。今後、様々な困難や迷いに出会うこともあるでしょう。けれど、仲間と積み重ねた日々が私たちを支え、前へ進む力を与えてくれます。

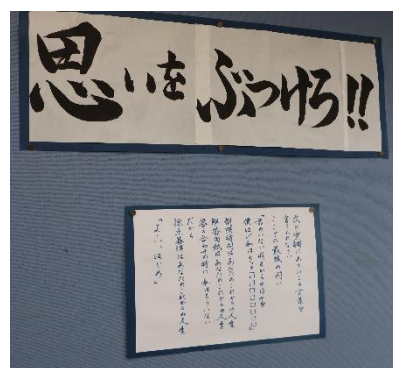
川島中で過ごした三年間を胸に、私たちはそれぞれの未来へ一歩を踏み出します。

卒業式の後には、『卒業記念活動』がありました。伊藤舞さん、赤堀さんの話の後、「信じる」「言葉にすれば」がありました。言葉にできないほど素晴らしいもの・・・とよく言われますが、まさにそのような合唱でした。迫力があり、強い思いのこもった素晴らしい合唱でした。

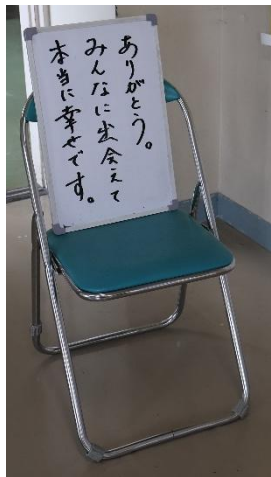




各教室で行われた学活では、9年間共に過ごした仲間との最後の時間を大切に過ごすことができました。







保護者の皆さんに感謝の言葉を伝える場面もありました。



川島中の仲間との「絆」を大切に、新しい世界へ胸を張って力強くすすんでいってください!!